

はじめに

情報メディアセンター長 中尾 浩

情報メディアセンター紀要の第 31 号をお届けします。前号に比べると、今号は各位の協力を得て、質・量ともに力のこもった原稿を寄稿していただいた。GIS（地理情報システム）に関する本格的論考や中国のソフトウェアパークに関する論考のように、地理と情報システムやソフトウェア開発と政策のように、情報科学の応用がますます進んでいることをうかがわせる論文を投稿していただいた。また本学でも名古屋校舎で 2006 年度から始まった新カリで e-learning による単位認定の試みが始まり、当該科目を担当していただいた情報科目担当者グループによる詳細な紹介や学術情報データベースや研修の報告もいただき、本学における情報関連の活動が地に足のついたものとして着実に成長していることをうかがわせている。

情報科学というと、いささか敷居が高いような印象がある。しかし、他方において、プリント作成や試験問題作成は言うに及ばず、会議通知にせよシラバス作成にせよ、われわれの生活の中にコンピュータはすっかりなくてはならないものになったばかりか、今まで想像もしなかった使い方が次々と現れてきている。そのスピードには圧倒されるばかりだが、逆に、教育にも研究にも事務作業にも応用可能な可能性が大いに高まったとも言える。

情報メディアセンター紀要は次号より紙面を大幅に刷新することになった。上にも述べたとおり、情報と聞くとなんとなく敷居が高くて、本誌は情報の専門家が投稿する紀要のようなイメージが強かったが、本誌や本学の情報メディアセンターが目指すのは、情報プロパーな分野に限らず、それぞれの分野における情報化の知識やテクニックを共有することにもある。情報科学本来の先進的な分野と同時に、それを応用させる分野が次々と確立され始めたとも言えるだろう。論文や研究ノート以外にもそれぞれの分野における情報化の現状を紹介するコーナーや書評等も充実させていくことにした。今後ともますます活発な投稿をお願いいたします。